



編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部
 支 部 長 松 田 文 平
 事務局 〒028-3452
 岩手県紫波郡紫波町片寄字四ツ屋300
 TEL/FAX 019-673-6607
 メール：info-iwate@afs.or.jp
 http://www2.afs.or.jp/tohoku/morioka/
 印 刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

AFS いわて

ホストファミリーはいませんか？

新年度がスタートし、学校も新入生を迎えて新たな一年が始まりました。AFSも海外からの春年間受入生とセメスター生、計222名が来日、全国の各支部に配属された生徒の通学やホストファミリーのサポートなどで忙しいことでしょう。岩手支部は残念ながらホストファミリーが見つからず、新学期の留学生受け入れが出来ませんでした。

留学生を家族の一員として迎え一緒に過ごすことは、ワクワク、ドキドキする冒険的側面と、文化・習慣・考え方の違いに戸惑ったり、家族生活のあり方を改めて考えさせられたりと、さまざまな面で貴重な経験となります。一人の外国の高校生をとおして、特に受入家庭の子供たちがグローバルマインドを獲得しているようで、その後自

らも留学を志したり、大人になって国際的分野で活躍する人材となる例が多いようです。

家族が一人増えるので食費などがかかる訳ですが、「お客さん」扱いせず普段の生活を心がけさえすれば、特別な出費は相当抑えることが出来ます。むしろ、特別なもてなしは逆効果で長続きしませんし、いつまでも家族の一員として扱われないので生徒から不満が出たりします。日本から派遣される生徒のほとんどは、受入家庭で「お客さん」扱いされることは絶対ありません。生徒はその家庭のライフスタイルに合わせるしかありません。日本でもホストファミリーは「普段のままの生活」の中で生徒の受け入れを考えてもらいたいものです。現在、秋年間受入生と来年3月来日生のホストファミリーを募集しております。

AFS年間派遣プログラム(第61期) 派遣生4名決定

アルゼンチン派遣 (2月出発)	瀧 本 佳 央 さん	盛岡第三
オーストラリア派遣 (2月出発)	新 里 亜 子 さん	盛岡第一
アメリカ派遣 (8月出発)	中 川 真 季 さん	盛岡白百合
香港派遣 (8月出発)	伊 藤 朱 里 さん	盛岡白百合中

3つの大切なこと

アメリカ派遣生 大川 裕

私は、アメリカのアラバマ州ゲインという小さな町に1年間留学しました。この1年間のアメリカでの生活は、私に3つの大切なことを教えてくれました。

1つ目は、人に感謝するということです。もちろん、日本でも人に感謝しながら過ごしていました。しかし、異国の地で、異なる環境で生活することで、さらに人に感謝することの大切さを学びました。いきなり来た外国人（私）に、優しく接してくれた地域の方々、知らない人（私）がいきなり来て自分の家族に加わることに抵抗を持たず、私の全てを受け入れてくれたホストファミリー、英語がなかなか通じず、授業の内容もろくに理解出来ない私にいつも付き添ってくれたホストスクールのみんな。このような人々が支えてくれたから、私は留学を無事に終えることが出来ました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

2つ目は、母国語で勉強出来ることの大切さです。これは、留学初期に感じたことです。点数を取りたいのに、英語での授業がなかなか理解出来なかった

私は、日本での勉強を思い出し、言語に困ることなく勉強出来ることのありがたさを知りました。これからの日本での勉強を、この想いを心に留めて頑張ります。

3つ目は、国境を越えた人々とのつながりです。ホストスクールの課外活動で出来たソフトボール仲間や、同じ教会に通う地域の方々、もちろんホストファミリーを含め、その他にも多くの人々に出会いました。海外に友達や知り合いを持つことによって、自分の知識が広がり、自分がよりグローバルな人間になります。これからも、今回の留学で出来た『つながり』を大切にしていきたいです。

留学に行く前も、アメリカに行ってから、私を支えてくれたAFSの皆さん、留学を許可してくれた家族、留学を応援してくれたみんなに感謝しています。これからの日本での生活で、今回の経験を活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

Thank you very much.

I'll never forget this wonderful experience!

AFS体験記

AFSから17年

1996年AFS第43期アメリカ派遣 ペイン 紀子

私がAFS生として、アメリカのアリゾナ州で一年間を過ごしたのは、今から17年前のこと。見るもの、聞くもの、食べるもの全てが新しく新鮮で、毎日が刺激的な日々だったのを覚えています。その一年間だけでは物足りなかった私は、大学もアメリカに戻り、そのまま就職し、結婚。今は二人の子供たちに恵まれ幸せな日々を過ごしていますが、日本を離れて15年が経ち、いつも思うのは日本のことです。

日本の家族、岩手の風景、温泉、おいしいご飯。高校生の時は、早く日本を飛び出たくて仕様がなかったのに、今はその逆で、夢にまで日本が出てきます。アメリカで暮らしている多くの日本人と交流をして思うのは、皆口々に日本の良さを語っています。自分の住み慣れた場所を離れて初めて、故郷のすばらしさを実感するのですね。

今は、なかなか日本に帰って来られなくなり

ましたが、長い海外生活のきっかけとなったAFSでの留学は一切後悔していません。海外での生活は、長くなれば長くなるほど住み慣れては行きますが、それだけ日本ではありえない経験も沢山あります。人種差別や危険な場面に遭遇したりと、楽しいことだけではありません。でもそれらすべての経験が、私に必要な経験であり、一つの方向からしか物事を見ない私から、いろんな角度から見られる私へと変えてくれました。私の人生を深いものにしてくれたと思っています。

これから留学を考えている学生の方たち、もしやってみたくてという思いがあるなら、まずはチャレンジしてみてください。自分が想像していたよりもっと違った新しい世界へ導かれるかもしれません。そしてより豊かな経験を通して、新しい自分にも出会えるはずですよ。

マレーシアでの思い出

マレーシア派遣生 阿部 このみ

マレーシアの学校は朝7時20分に始まります。毎朝、全校朝会のようなものがあり、その後授業開始です。学校にはチャイムがないので、生徒たちが各自時計を確認しながら動いています。授業は科目によって違いますが、マレー語と英語で教授されます。私のクラスは笑い声の絶えない明るいクラスでした。先生は本当に気まぐれで授業に来たり来なかったり…。10時40分ごろにはお昼休みになります。私の学校には食堂と購買があったので、そこで食べたりしていました。家からパンやスパゲティを持っていくこともあります。友達に誕生日にはホールケーキを買ってみんなでお祝いしてあげます。食堂にはナシ・ルマやミー・ゴレンなどのマレー料理が中心にありました。午後の授業が終わる午後2時30分ごろになると、みんな帰宅し始めます。ここでは普通、親に送り迎えしてもらいます。帰宅するとお昼ご飯を食べてから（また？と思うかもしれませんが学校で食べたのは朝ごはんのようなものです。）みんなは塾に行きます。マレーシアでは塾に行くのが普通なので、私は時々みんなと遊びに行くくらいしかできませんでした。3つ、4つ塾を掛け持ちしてる子もいました。学校では先生は、優秀な生徒には「あなたたちは頭が良いんだから」と、そうでない生徒たちには「今さらやっても」と言い、あまり授業をちゃんとやってくれないそうです。ちなみに水曜日は委員会やクラブ活動があって午後3時の下校になります。金曜日にはマレー系（イスラム）のお祈りがあるので12時に下校です。ふだんの生活の中に宗教が溶け込んでいます。学校の中にもモスクがあります。公立の制服は全国共通のものですが、マレー系はマレー系の、チャイニーズはチャイニーズの制服があります。マレー系はその制服しか着れませんが、チャイニーズとインド系はどちらも着れます。宗教のことを書き始めるとキリがないので省略しますが、イスラム教は豚が食べられません。江崎グリコの“Pocky”はPorkを連想させるのため、ここでは”Rocky”として売られています。

私のホストファミリーはチャイニーズだったので、宗教が生活を左右しているとか、きゅうくつだと思えることはなく、住みやすかったです。私はヤムチャが大好きでした。日本語で言うと、「お茶」です。友達を呼んでカフェなどでおしゃべりしながら食べたり飲んだりすることです。ホストママと行くこともあったり、友達にヤムチャ行こうよって言って連れ行ってもらったこともありました。チャイニー

ズのお家は夜遅くまで遊んでワイワイするのが好きですが、マレー系、インド系はあまり子供だけでは夜出歩くようなことはないような気がします。こっちの家族は外食が多いです。日本だとそんなに外食することはないと思うのですが、こっちは頻りに家族で外食しています。屋台のときもあればレストランのときもあり…。チャイニーズは宗教による食べ物の制限などが無いので、マレーシアではいろいろな種類のものが食べられます。夏の夜の風が気持ちいい屋台が私はとっても好きでした。それと、こっちの人はすぐ旅行に行きます。世界で一番休日の多い国らしいのですが、1,2週間休みになったらみんなすぐに旅行に行きます。私も香港と中国に行ってきました。休みが明けると友達はイタリアよかったよーとか、イギリスが寒かったー、オーストラリアのビーチが…などなど…。特にチャイニーズはお金にも余裕があるようです。世界一休日の多い国と言いましたが、理由は三民族の「新年」です。2月のチャイニーズ・ニュー・イヤー、8月のハリ・ラヤ（マレー系）、11月のディパバリ（インド系）と、それぞれ大きなお祭りがあるからなのです。あとはテスト（約1ヶ月）が終わると、2週間休み、などです。

マレーシアから見た日本ですが、世界的に見ても先進国の日本は、“超越したテクノロジーの国”というイメージが強いようです。代表的なものはASIMO、新幹線、インターネットの速度、トイレのウォシュレット、日本車など…。日本といえば、アニメ、漫画ですね。アニメのことなど良く聞かれるものの1つなので、初めて、ああ、オタクしてよかった(q)と思いました。みんなが知ってるアニメはONE PIECE, NARUTO, DRAGON BALL, DORAEMONでした。あとマレーシアは1年中夏の南国なので、季節についてもよく聞かれました。桜を見るには何月？夏はどれくらい暑くなるの？秋はまだ半そで？雪ってどんな感じ？などなど。特に冬です。雪に興味深々です。まだまだたくさん書ききれないことがあるので、ぜひマレーシアへ行って確かめてみてください！



留学の思い出

小田島 来 賀 (岩手高校1年・アメリカ)

「たった1ヶ月、されど1ヶ月」今回の留学は、この言葉がぴったりだと思います。年間留学に比べて期間の短い短期留学でしたが、毎日をとっても大切に過ごしてきました。異文化体験、初めての寮生活、たくさんの参加生との交流。特にフィールドトリップという遠足のようなものでは、スタッフではない現地の人と話さなければならぬので、とても貴重な経験ができました。他にもたくさんのすばらしい経験をさせてもらいました。

自分は、日本では、初めて会う人との会話や、人前で話す事が苦手な陰に隠れていて、とても消極的でしたが、アメリカでは、いろいろな人と積極的に話

すように心掛けて生活したおかげで、たくさんの友達ができました。

ただ、英語が上手いというわけではないので、一緒に行った日本の友達に聞き取れなかった英語を翻訳して教えてもらうことも少なくありませんでした。そのため、僕はもっと英語が上手になりたいと思いました。そして年間留学にも興味が湧きました。

そんな留学を終えて、はや1ヶ月が過ぎ、1週間・2週間と時間は過ぎていきます。僕は、何もしないでこの経験をただの過去のいい思い出にしてしまうのではなく、これからの糧として、今回「TOMODACHI」プログラムで支援して下さったAFSの方々や、世の中に恩返しができるように、感謝の気持ちを胸に日々を一生懸命に過ごしていきたいです。



AFS TOMODACHIサマー2013 英語研修プログラムに参加して

山 崎 成 歩 (盛岡第四高校2年・アメリカ)

今回、TOMODACHIサマー2013英語研修プログラムに参加してきました。期間は約1ヶ月間の短期留学でした。このプログラムは東日本大震災により被災した岩手県、宮城県、福島県の3県の高中生9名が参加しました。事前に米国大使館訪問やプログラム期間中にあったプレゼンテーションでは、私たちの東日本大震災の体験談を世界に伝えてきました。

このプログラムでは世界各国から集まった生徒とルームシェア、英語での授業やアクティビティに参加出来ました。特にルームシェアは国の違う人と2人だけだったので、毎日の会話は全て英語で行いました。会話を通じて互いの国を知り合う良いきっかけになり、英語の授業では、レベル別に別れて授業が進められていきました。中には流暢な話し方をする生徒もいてとても驚きました。アクティビティは英語の授業が終わってから全ての生徒の間で行われました。毎日英語で会話し、初めの期間は自分の話す英語が伝わらず困ったこともありましたが、しかし、

だんだん話す回数が増えるに連れ、話すことも聞くことにも慣れてきました。

毎日英語を使って生活していると、文法や単語の発音を間違えることがあります。始めのうちはミスをするのが怖くて、自分から英語を話すことが出来ず、ただ相手の話を聞いていることが多かったです。しかし、思い切って自分の好きなことや趣味を相手に伝えようとすると、相手も私が伝えようとしていることを理解してくれました。世界には同じ趣味や活動、部活をしている人がいます。相手との共通点を見つけることで、たくさんの生徒と繋がることができました。

今回このプログラムに参加して世界各国を知り、自分自身の国を見直す機会に恵まれました。アメリカに世界から英語を学んでいる生徒が集まった事で、個々の英語力上達に繋がったと感じます。文化の違いや自分の言いたいことが上手く伝えられなくて英語を話すことに苦しさを感じたこともありましたが、しかしこの経験は、英語や、その言語だけでなく相手に自分の意思を伝えることの大切さを教えてくれました。これからも英語やアメリカという国に関わらず、世界各国に目を向けてグローバル社会に対応出来る人になりたいです。

ホストファミリーより

ホストファミリーとしての思い出

工 藤 千 香

私達家族は、10月末から2月初めまでの約3か月半のホストファミリーを経験しました。

冬の寒い時期でもあり、体調を崩さないか心配でしたが、病院を受診することなく、学校を休むこともなく、元気に過ごして帰国できたことにホッとしています。

この経験で、我が娘が留学した時のホストファミリーに、4年たった今、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。いろいろなことがありましたが、終わってみれば全ていい経験となりました。

支えてくださった支部の皆様、心より感謝申し上げます。



アルゼンチン留学に向けて

～61期アルゼンチン派遣～

盛岡第三高校2年 瀧本佳央

初めて訪れるアルゼンチンでの生活を想像しながら、大きな期待で胸をふくらませています。2014年2月の出発を控えて時間も限られている中、現地での生活に向けて準備を進めています。アルゼンチンの環境や産業、生活に関わる情報や日本の文化や自然環境、生活に関する情報を整理しているところです。先輩や支部員の皆さんからも留学する上で留意すべきこと等をお聞きし、充実した一年間になるように備えたいと思います。

今回、私は南米派遣ということで、治安状況など不安な面も少なからずあります。しかし、自分で選んだ国です。持ち前の明るい性格と憶さない積極性で、たくさんの友達、そしてたくさんの貴重な経験を作ってきます。これからも留学を支援してくれているAFS関係の方々、家族への感謝の気持ちを忘れず、過ごしていきます！

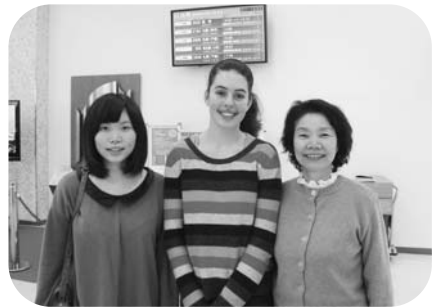
この三週間はとても楽しかった。たくさん友達をつくらり、日本の文化と生活を学んだりしました。しかも、来にもりおがにがえって、またもや友達に会いたいです。オーストラリアにがえっても友達をわすれません。友達に手紙を書くのを楽しみにしています。私の一番のおもいごは、そんじを見たことでも。それいでした。オーストラリアにおなじような建物がありません。つぎの右手の行く時に、また行きたいです。AFS、どうもありがとうございました。このけりけんはともえげらしたが、たごす。

オーストラリアー

ドミニク・ポジ

フォト スナップ

ドミニク・ポジ
(オーストラリア)



4/28 支部花見会



9/14 支部バザー



10/14 支部ぶどう狩り



10/16 日本語スピーチコンテスト

■2015年派遣(第62期)生 中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。
皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考A・B日程

A日程 募集期間：4月1日(火)～6月2日(月)
試験日：6月15日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

B日程 募集期間：4月1日(火)～7月7日(月)
試験日：7月20日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

試験内容：英語筆記試験(80分)、一般教養(30分)、日本語面接(15分程度)
※英語試験はELTiSテストです。

選考手数料：20,600円

(詳細はホームページで確認のこと)

ホストファミリー募集

AFS留学生を家庭に迎えてください。応募条件はただ一つ。「単身でないご家庭」。外国語ができなくても構いません。日本語で話しかけるだけで受け入れができます。

年間受入生(10.5ヶ月)

秋受入：2014年8月下旬～ 春受入：2015年3月下旬～

セメスター受入生(5.5ヶ月)

秋受入：2014年8月下旬～ 春受入：2015年3月下旬～

短期受入生(1ヶ月程度)

それぞれの募集締切は受入の4ヶ月前まで

詳しくはAFSのホームページで。http://www.afs.or.jp/

平成25年度 岩手支部収支報告

収入の部	寄付金	110,000円
	会費	78,000円
	その他の収入	71,950円
	協会本部より	89,085円
	繰越金	1,107,755円
収入合計		1,456,790円
支出の部	支部管理費	217,593円
	協会本部分	77,085円
	次期繰越金	1,162,112円
	支出合計	1,456,790円

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様からAFS岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。

《会費》 日影 光則 松田 文平 大坊 一男 中村 道典 盛島 寛 工藤 弘幸 阿部 祐二
伊藤 直之 米沢 俊一 諏訪 君雄 御堂モヨ子 西 俊六 箱崎 朋子 橋本 洋絵
日向真理子 川村 俊幸 山口 碧 大川 博幸 井上 弘子 照井 保之 平井 博夫
伊藤 敏子 高橋 透 中野 達也 佐藤 賢吉 大木 謙嗣

《寄付金》 九戸印刷 横山 ユウ JA全農いわて(ホストファミリー支援米) (敬称略・順不同)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年3,000円(支部会員)

支部会員(支部員、派遣生保護者、リタニー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

等振込先

ゆうちょ銀行 10190-17982571(普通)
口座名義：(公財)AFS日本協会岩手支部

■ご寄付のお願い■ AFSは国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしくお願い致します。

【ご寄付の方法】(公財)AFS日本協会(支部を含む)への寄付はいくらからでもしていただけます。

※詳しくはAFSのホームページをご覧ください。

「みちのく応援奨学金」の奨学生募集

みちのく応援奨学金	ジャパン・リサエティーみちのく応援奨学金	JFAMみちのく応援奨学金
【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(1名)	【対象者】 留学希望の高校生(7名：アメリカ優先、他の国若干名)	【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(1名)
【留学期間】2015年の約10カ月間のホームステイ及び高校通学		
【支給額】AFS年間派遣プログラム参加費+諸雑費の合計150万円		
【応募条件】震災時、青森県・岩手県・宮城県・福島県の全域に居住または在学していた生徒で、一般選考AまたはB日程を受験し受入国が内定した者。		
※奨学金申し込みは、「AFS年間派遣第62期選考A・B日程」の通過者に案内する。		